

# 中国四川省における公共図書館の高齢者サービスの現状：政策と現地調査の分析から

張 心言(慶應義塾大学大学院)

shingen66@keio.jp

## 1. 研究背景と研究目的

現在、中国では人口高齢化の問題が深刻に受け止められている。中国民政部が発表した統計資料によると、2018年末時点で、中国では、60歳以上の高齢者が2億4949万人で、全人口の17.9%を占めている<sup>1)</sup>。中国政府は2006年から、高齢化社会を乗り越えていくための諸政策を社会発展事業の一つとして位置付けた<sup>2)</sup>。

こうした高齢化社会を迎える時代背景を受け、重要な公共文化施設である公共図書館では、少しずつ動きが見られるようになってきた。しかし、日々の来館者に高齢者が増える傾向があるものの、図書館における高齢者を対象とするサービスはそれほど積極的に行われてこなかった。

そこで本研究は、中国の図書館政策を概観した上で、四川省における公共図書館への訪問調査を通して、高齢者サービスの実施現状を明らかにする一方、そのサービスの展開が制約された理由を探ることを目的とする。

## 2. 調査対象と方法

本研究では、図書館の高齢者サービスに関わる国ならびに四川省の政策を概観した上で、四川省の省都——成都市における省級（1館）、市級（1館）、区級（全10館のうち2館）の三つのレベルで設置された計4館の公共図書館を対象として、訪問調査と図書館の管理者層へのインタビュー調査を行った。インタビュー調査は、表1の4名の責任者の協力を得て、各館のサービスの実施現状や高齢者に対するイメージなどについて自由に話してもらった。調査期間は2019年8月の一ヶ月間であった。

第1表 インタビュー調査の対象

館名	四川省 図書館	成都市 図書館	錦江区 図書館	武侯区 図書館
肩書き	副館長	館長	主任	職員
性別	女	男	女	女

なお、四川省成都市は、総人口が1435.33万人で高齢者数も全国同級市の上位に占め、60歳以上の人口は戸籍人口の21.18%を占める303.98万人に達し、中国全体の高齢化率17.9%より3%高い<sup>3)</sup>。

## 3. 調査結果

### 3.1 政策における図書館の高齢者サービス

中国では、最初に高齢者サービスについて触れた図書館政策として、2012年5月に頒布された「公共図書館サービス規範」がある。これは、公共図書館の所管省庁である文化部が制定する行政規則であり、利用者対象別に相応するサービスを提供すべきであると指摘し、「高齢者」は独立した利用者カテゴリーとして言及されている<sup>4)</sup>。

その後、急速な経済発展に伴い、多くの国民が生活に文化的な豊かさを求めるようになる中で、中国政府は文化政策重視の姿勢を更に強め、文化関連の法律整備に力を入れている。

2016年12月に、最高国家権力機関および立法機関である全国人民代表大会は、公共文化サービスの体系的な整備を推進するための基本法「公共文化サービス保障法」を公布した。同法は、公共図書館を主要な公共文化施設として、公共文化サービスの強化拡充の重点の一つとし、高齢者等の各集団の特徴及び要求に基づき、「相応の公共文化サービスを提供しなければならない」と規定した<sup>5)</sup>。

更に2017年末に、中国で初めての図書館専門法である「公共図書館法」が施行された。それまでの17年間の調査研究や改定を経て完成された「公共図書館法」は、前述の「公共文化サービス保障法」に次ぐ文化関連の重要立法と位置付けられ、公共図書館の定義、機能、サービス内容、管理運営等について包括的に定めるものである。同法は、図書館における高齢者サービスについてより明確な要求を打ち出し、高齢者の需要に適合した「文献情報の提供」、「バリアフリーの施設設備の提供」と「サービスの提供」の三つの事業内容を提出した<sup>6)</sup>。

「公共文化サービス保障法」と「公共図書館法」は互いに密接に結びついており、高齢者集団の図書館利用の権利を保証する法律レベルの基本規範を形成している。

両法律の施行は、公共図書館の評価システムにも影響を及ぼした。文化部は1994年から五年ごとに、全国の県レベル以上の公共図書館を対象として格付け評価を行っている。格付け評価は「公共図書館評価格付け標準」に基づき、図書館の蔵書、館舎、設備、経費、スタッフ、業務と利用者サービス等の項目の点数化によってなされる。その評価結果に基づき、全国の公共図書館は一級、二級、三級図書館と格付けされた。「公共文化サービス保障法」と「公共図書館法」の施行をもって、2017年から2018年にかけて行われた第6回の評価格付け標準が大幅に改訂され、前5回の標準になかった高齢者サービスの関連得点条項が新設され、400点満点(第一部分:サービスの効果に関する評価)のうち5点を占めるようになった<sup>7)</sup>。

一方、四川省では2010年代に入り「四川省公共図書館無料開放管理方法(試行)」、「四川省公共図書館条例」などの図書館に関する地方立法が相次いで発表された。高齢者の図書館利用を利便化させるために、資料配送や拡大鏡、老眼眼鏡の提供などの内容が記述され、国レベ

ルの基準に比べてサービスの内容がより明確化されている。

### 3.2 訪問調査の結果

#### 3.2.1 事業内容

表2では、今回の調査対象4館が現在実施している高齢者向け事業内容をまとめた。

第2表 各館の高齢者向け事業内容

種類	サービス項目	四川省 図書館	成都市 図書館	錦江区 図書館	武侯区 図書館
空間	優先席の設置	○			○
設備	拡大鏡、老眼眼鏡、医療箱 などの整備	○	○	○	○
資料	大活字本資料等	○			
	高齢者むけ情報コーナー (定期○ 不定期△)		△	○	
活動	講座プログラム運営 (定期○ 不定期△)	△	△	△	○
他	高齢者ボランティアの活用	○			

表2を見ると、注力されているサービス項目の種類は、優先席の設置や拡大鏡、老眼眼鏡の整備など主に高齢者に優しい物理的な環境づくりであることがわかる。

また、4館とも高齢者サービスに特化した予算が立てられていないため、大活字本などの資料購入が積極的に行われていない。さらに、高齢者むけの活動も単発的なものが多く、内容にもばらつきが見られる。

その中で特筆すべきは、四川省図書館は2018年に資料費の中から大活字本を購入するための予算を計上したことである。当館の副館長によると、その理由は「第6回の公共図書館評価格付け標準の改訂に従って、高齢者サービスの実施が得点項目となり、当館は高齢者サービスにより一層関心が強まるようになった」とのことであった。

全体から見ると、高齢者向けのサービスは図書館ごとにある程度提供されているが、高齢者

の増加に対して特に積極的に対応しようとする動きは見られなかった。

### 3.2.2 図書館における高齢者像

今回の調査を通して見えてきたのは、図書館員が高齢者を「図書館利用に障害のある人」としてとらえる傾向である。例えば成都市図書館の館長は、成都市の住民は古来「のんびり屋さん」として世間に知られていることを参照しながら、高齢者については、「お茶の水筒を持って席でゆったりと新聞を読めば満足だろう」ということだった。

高齢者がボランティアや他の活動を通して図書館に貢献できるというような高齢者像があるかどうかを知るために、高齢者のボランティアを受け入れているか尋ねたところ、四川省図書館では、現在高齢者をボランティアとして受け入れているとのことだったが、調査対象とした他の三館では活用はないとのことであった。

### 3.2.3 高齢者サービスの位置付け

今回の調査で見えてきたことは、図書館事業における高齢者を対象としたサービスの優先順位が相対的に低い点である。成都市図書館では現時点での重要な任務として、図書館事業と観光事業の接続点を探している。その理由は、2018年の国务院機構改革案により、同年3月から公共図書館の所管省庁である元文化部は元観光局と統合し、文化観光部に改称され、文化と観光事業を共に管轄するようになったことがある。現在、政府は文化と観光を一体化させる「文旅融合」事業に力を入れ、代表的な文化施設である公共図書館もその動向から多大な影響を受けているとのことであった。

区級図書館も観光に関わる事業を打ち出している。最大の繁華街を有する商業地として知られる錦江区に位置する、錦江区図書館の主任は、当館が商業区としての特徴を全面に出した事業に力を入れる必要があることに言及した。

また、武侯区図書館の場合には、区域内に三国時代に蜀の丞相を務めた諸葛亮らを祀る武侯祠があるために、当館も「三国文化」をアピールするために工夫をしなければならないとのことであった。

このように、公共図書館の経営資源はそれらの優先順位の高い事業に配分されることで、高齢者サービスの優先順位が相対的に低くなっている現状が見えてきた。

## 4. 考察

高齢者サービスの展開が制約される理由を以下の三点にまとめる。

まずは、行動マニュアルと評価指標が整備されていないことである。近年、公共図書館の高齢者サービスは政策面から注目されるようになったが、これらの動きはまだ端緒に就いたばかりである。現行の法律や基準にある高齢者サービスの関連条項は、大まかな方針を提示するだけで、図書館の現場で参照できるような行動指針や、サービスの効果を評価できるような指標がほとんど記述されていない。中国の公共図書館にとって、高齢者事業の経験が浅く、現場では手探りの状態のため、提供サービスにばらつきが生じている可能性も大きい。具体的な指針や評価指標の作成が求められる。

第6回の公共図書館評価格付け標準の改訂は、具体性の欠けた内容となっていたが、高齢者サービスが図書館評価との結合に向けた最初の一步を確実に踏み出したと言える。高齢者サービスを一層展開していくためには、行動のマニュアルやその達成状況を評価する指標が欠かせないと考えられる。

次に、高齢者集団への認識不足が挙げられる。中国は60歳以上を一律に高齢者と規定したが、同じ高齢者と言っても、平均寿命が伸び続けるなか、年齢の幅が大きくなっている。高齢者向けの現状の事業は、もちろんその有効性は軽視

してはならないが、60歳を超えても元気であり、多種多様な社会参加を通して活躍している人も決して少なくない。高齢者を一律に「支えられる人」と捉えることは、逆に彼らの尊厳を低下させかねない。何らかの形で自己実現を果たしたいと考える高齢者に対し、図書館はもっと工夫の余地がある。

また、高齢者の教育や所得など様々な要因による格差の現状も看過できない問題である。特に中国では、現在60代の多くの人々は青年期に文化大革命に遭い、教育の機会を奪われている。今後は、文革終結後に高等教育を受けた人、つまり現在の高齢者とは文化的に異なっている層が数多く高齢期を迎えることにより、高齢者間の格差がますます広がる点にも注目すべきである。なおこの他にも、「空巢老人<sup>8)</sup>」や「失独老人<sup>9)</sup>」など、現代社会において問題視されている高齢者群に対し、図書館がどのように対応するのかについても検討する必要がある。

最後に、経営資源の配分を再検討する余地がある。公共図書館が事業着手の優先性を判断する際、政府の動向が重要な要素であり、図書館の予算編成や人員配置に直接な影響を与えている。無論、各館が積極的に力を入れている「文旅融合」などの事業を否定するわけではないが、日々の来館者に高齢者が増える傾向が明らかになっている今日では、限られた経営資源の範囲内でより効果的なサービスを遂行するために、この集団を重要視すべきではないだろうか。例えば高齢者の実態やニーズを把握することで、拡大鏡や老眼眼鏡の提供やバリアフリー施設の整備以外の、よりよいサービスを検討し提供していきけるはずである。

本研究では、高齢者サービスの背景となる政策と現状を調査し、考察した。今後は高齢者の角度から見たサービスの提供について研究を行っていきたい。

## 注・参考文献

- 1) 中国民政部. 2018年民政事業発展統計公報. 2019.  
<http://images3.mca.gov.cn/www2017/file/201908/1565920301578.pdf>, (参照 20191001)  
なお、中国の「老年人權益保護法」では、60歳以上を高齢者と規定している。
- 2) 中国国務院. 中華人民共和國國民經濟和社會發展第十一個五年規劃綱要. 2006.  
[http://www.gov.cn/gongbao/content/2006/content\\_268766.htm](http://www.gov.cn/gongbao/content/2006/content_268766.htm), (参照 20191001)
- 3) 成都市老齡工作委員會事務局. 成都市 2017 年老年人口信息和老齡事業發展狀況報告. 2008.  
<http://sc.people.com.cn/n2/2018/0522/c345167-31607894.html>, (参照 20191001)
- 4) 国家文化観光部 (元文化部). 公共図書館サービス規範. 2012.  
<https://wenku.baidu.com/view/fc17d1ecf424ccbff121dd36a32d7375a417c60b.html>, (参照 20191001)
- 5) 全国人民代表大会常務委員会. 中華人民共和國公共文化サービス保障法. 2016.  
[http://www.npc.gov.cn/zgrdw/npc/xinwen/2016-12/25/content\\_2004880.htm](http://www.npc.gov.cn/zgrdw/npc/xinwen/2016-12/25/content_2004880.htm), (参照 20191001)
- 6) 全国人民代表大会常務委員会. 中華人民共和國公共図書館法. 2017.  
<http://www.npc.gov.cn/npc/c12435/201811/3885276ceafc4ed788695e8c45c55dcc.shtml>, (参照 20191001)
- 7) 国家文化観光部. 第 6 回全国県級以上公共図書館評価格付け標準. 2017.  
<http://zwgk.mct.gov.cn/auto255/201808/t20180827834424.html?keywords=>, (参照 20191001)
- 8) 空巢老人：子供が成長し家を離れたため、一人または夫婦のみで生活する高齢者。2000年以後、従来の人口流通を防ぐための戸籍制度が緩和されることにより、内陸部の若者の沿海都市への出稼ぎや就職が増加しつつ、四川省を代表とする内陸部の「空巢老人」問題が特に目立っている。
- 9) 失独老人：一人っ子に先立たれた老人。